



f.楽団の構成は打楽器と笛が中心。ベトナムがオリジナルのクロムプットが出すボン、ボンと低く優しい音は、竹を大事にしている人々の思いが伝わってくるようだ。

g.風格ある多目的スペースとしてよみがえった古民家「旧笠井邸」。舞台の後ろには竹があしらわれている。

h.「この梁(はり)はすべてもとの家のまま。長く使われていなかったため、清掃作業が大変でした」とNPO法人ネットワーク竹原理事長の佐渡泰さん。

## 通りに響く 柔らかな竹の音色

町の名であり、竹林にも囲まれた町のシンボルはやはり「竹」。竹文化の振興と歴史ある町の保存のため、竹を生かした町おこし活動が盛んに行われている。中でも最近知名度が上がり、各地のイベントに登場し、一役買っているのが「たけはら竹夢楽団」。地元の小中学生や先生などで構成され、NPO法人ネットワーク竹原の佐渡泰さん(さどやすし)が中心となって運営する手作り竹楽器の楽団だ。楽団の週に一度の練習日には、「ボンボンボン」という柔らかな余韻を含んだ音が通りに流れ、今や知らない

人はいない竹原名物だ。

さらに古民家の修復、再生にも取り組む佐渡さんは、楽団の練習にも再生された蔵を使っている。「町の観光資源を守るだけでなく、取り壊してごみになるのを防ぎ、再利用に役立てるというエコの側面もあります」と話す。

## 竹のパワーでおいしく健康! 竹が町を元気にする

町おこしには、名物のお土産の存在も欠かせない。そのお土産にも、竹にこだわる町ならではのユニークな商品が並ぶ。「はこにわ本舗 いちかわ」の竹炭を使ったカステラとシュークリームは、真っ黒な

見た目に、最初は誰もが驚いたという商品だ。

それに負けじとアイデアを絞るのが「竹の駅」。店内には試行錯誤の上、作り出した「竹焼塩」や竹炭製食品がずらりと並び、さらにここでしかできないという、竹の繊維を使った和紙づくりや竹筆づくり体験を行っている。特に竹の和紙は、地元の小学生が、毎年自分の卒業証書用に使っているという優れもの。

音楽あり、食べ物あり、体験あり、竹原の町おこしは、実にバラエティーに富んでいた。町のみんなを取り組む竹の町おこしは、まだまだこれから発展していく。

### ■西方寺・普明閣

竹原市本町3-10-44 ☎0846-22-2236(西方寺)

### ■竹鶴酒造・小笹屋 酒の資料館

竹原市本町3-10-29 ☎0846-22-2021

### ■旧笠井邸(不定期オープン)

竹原市本町1-9-11

☎0846-22-0214(NPO法人ネットワーク竹原)

### ■はこにわ本舗 いちかわ

竹原市本町1-3-1 ☎0846-22-8338(支店)

竹原市吉名町5254-312 ☎0846-22-0894(本店)

### ■竹の駅

竹原市下野町3260-2 ☎0846-23-5432

[資料協力]

竹原市産業文化観光文化室 ☎0846-22-7730

NPO法人ネットワーク竹原 ☎0846-22-0214

Present!  
プレゼント  
P.19

## 「竹焼塩」&「竹炭マドラー」 プレゼント!

このページで紹介のミネラル分たっぷりの「竹焼塩」と、「竹炭マドラー」をセットで3名様にプレゼント。詳しくはP.19をご覧ください。



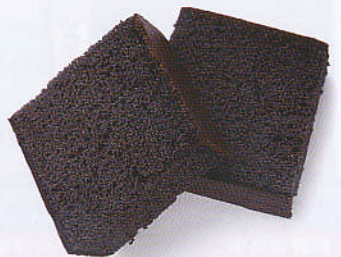
k.食堂などで使われている竹製のはしを、回収して「竹炭マドラー」にリサイクル。10本入り315円(竹の駅)。



i.真っ黒なシュー皮に白いクリームがのったシュークリームは「くろちゃん」。すべて手作りのため一度にたくさんできず、品切れもしばしば。人気商品だ。1個150円(はこにわ本舗 いちかわ)。



l.青竹の中に瀬戸内海産の塩を詰めて焼き上げることで、豊富なミネラルを含んだ「竹焼塩」が出来上がる。1回焼き130g630円、3回焼き130g1,155円(竹の駅)。



j.竹炭のミネラルを含んだ竹炭かすたら「食炭(くうたん)」。見た目にも面白いと喜ばれ、お遣い物としても評判が良い。1本1,050円、1切126円(はこにわ本舗 いちかわ)。